

<ケーススタディ 北海道ニセコ高等学校の場合>

北海道ニセコ高等学校は2011年10月に初めてマレーシアへ見学旅行を実施しました。マレーシアのYTL社がニセコ町でニセコビレッジというリゾート施設を経営していることが縁でニセコ町とマレーシアの交流を深める目的でスタートしたそうです。実際にホテル研修などを行った様子や今後の展望を同校の嶋木勉先生に伺いました。

【実施日程】2011年10月30日～11月3日

【参加人数】30名（緑地観光学科30名うち観光課リゾートコース18名）



Q マレーシア見学旅行実施に至る経緯を教えてください

A 経緯についてはニセコ町に対するYTL社のオファーがきっかけです。本校はニセコ町が設置する町立の農業高校ですが、観光に関するコースも設けているため、YTL社がクアラルンプールで運営しているホテルスクールとの交流も魅力的でした。費用に関して、これまでは旅行先が韓国でしたので、旅行費用が大きく増加する事となりましたが、差額はニセコ町により負担して頂きましたので、保護者の負担は昨年と同様に済ませることができています。北海道の高校でマレーシアへの見学旅行を行っている学校はほとんどないようで、行程や旅行内容の組み立ては手探り状態から始まりました。しかし、YTLの現地日本人スタッフによる協力や1月に行った現地視察などにより準備は順調に進み、結果的には十分満足いく旅行だったと考えています。

Q 初めての学校交流はどのようなものになりましたか？

A 生徒たちは文化交流で踊るよさこいソーランの練習や、日本の巻き寿司をマレーシアの生徒たちに教えられるように、作り方を練習して英語で説明できるようになど、準備には結構時間をかけました。

実際の場面では、最初のうちは何を話して良いかもわからず、そもそも言葉がうまく話せないのが会場が静かでした。どんなことになるのか不安になりましたが、いくらもたないうちに片言の英語と身振り手振りでコミュニケーションを取りながら、交流会が終わるころにはすっかり仲良くなりました。午前中は自主研修、午後からはホテルスクール見学に交流会と、メインプログラムを1日に盛り込んだので、生徒たちは疲れた中でも充実した時間になったのではないかと思います。16時から始まった交流会が終わったのは21時頃でした。



Q ホテル研修はどのようなことをしましたか？生徒さんの様子も教えてください

A ホテルスクールを案内して頂きながら、モクテル（ノンアルコールカクテル）作り、ナプキンの折り方、マレーシア式紅茶「テタレ」、巻き寿司づくり、の4つのプログラムをグループごとにローテーション式で体験しました。巻き寿司作りに関しては、本当は日本文化を紹介する為に



私たちがあいて校の生徒さん達に教えながら一緒に作るはずでしたが、そのことがうまく伝わっておらず行ってみたら道具も食材も用意されていて、なんと相手校の生徒さんが作り方を説明し始めてしまいました…。日本の巻き寿司体験、とだけ伝わっていたため、前もって学んでくれていたと言うんです。もうびっくりで、私たちが歓迎してくれる心と意識の高さに感激しました。予想外の展開でしたが、とても楽しかったです。こちらは高校生ですが、相手校は専門学校のような学校ということもあってかホスピタリティが旺盛で非常に勉強熱心だと感じました。案内をしてくれる間の説明もひとつひとつがしっかりしていて、同じ年代なのに本校の生徒は彼らをだいぶお兄さんお姉さんのように感じて憧れの目で見えていたようです



Q ホテルを見学して、日本との違いなど気づきはありましたか？

A 私たちが宿泊したクアラルンプール市内のホテルは、いわゆる中級のホテルで、思ったより広くて豪華でした。ただ、日本のホテルしかよく知らない生徒たちにとっては、浴室やトイレのちがいが特に気になったようでした。例えばシャワーは壁に固定されているものを体験したことがほとんどありませんし、トイレは日本より水量が少なく詰まりやすいということや、横にホースがついていてそれでお尻をあらうというのが日本と大きく違い、不便と感じる生徒もおりました。文化の違いがサービスの違いととらえた生徒もおり、同じサービスでも日本と海外とでは違うということを感じていました。

エレベーターもにほんと海外とでは違い、使用するにはルームキー（カード）が必要で、セキュリティーがかなりしっかりしている事には感心しました。所在階の表記が、1階がG、2階から1、2、3と続くのにも驚いたようです。

Q 帰国後、何か変わった様子はありましたか？

A 学習意欲がわいたと思います。英語があまり好きでない生徒もいますが、現地で試された自分の英語力に納得できず、もう少し普段から力を入れていたらと公開した生徒がほとんどだったようです。若い生徒たちにとって、将来英語が必要な場面は当然ありますから、意識して勉強に取り組めるようになったことは良いことです。

また現地のホテルで働く日本人スタッフから話を聞く機会もあり、どういったルート（進路）でそこに就職できたのか、その為には上の学校へ進学する必要があることなど、興味深く教えてもらっていました。

将来の進路について考えさせる機会は今までも多く設けていましたが、視野を広く国外へ向ける生徒も出てきて進路指導の面からも大変良い機会になったと思っています。



Q 今後の課題は？

A 現地での行程は3日間に限られていますので、スケジュールが過密になってしまい、ホテルへの帰館が早くも20時、就寝時刻も11時～12時となってしまいました。往復の機内で睡眠をとり調整するなど生徒たちにはずいぶん頑張ってもらいました。北海道とマレーシアの気候のちがいも身体には影響すると思うので、生徒たちの体調管理には気を付けたいものです。



Q どのような教育効果があったとお考えですか？

A 何よりも生徒たちのしやが広がったと思います。他所の国を知る事で、日本の良さや日本に足りていないところに気づけました。私自身も含めて痛烈に感じたことは、にほんはまだまだ外国人に対して閉鎖的であるという事です。ニセコ町には比較的多くの外国人が訪れたり居住していたりしますが、それでも外国人が外を歩いているだけで、「あ、外国人だ！」と反応してしまう人は少なくありません。マレーシアでは3つの民族が混在しているしながら、宗教同士の対立、ぎくしゃくしている感じが全くなく、融合しているところが素晴らしいと思いました。また、マレーシアの治安がよいと実感した上でなお、日本には世界的に見てはるかに治安がよい国なのだとわかりました。細かなサービスが行き届いているのも、誇るべきことですね。町中を少し歩けばすぐにコンビニがあるなど、とにかく便利で至れり尽くせりな国だと思いました。



Q 今後、現地の学生をニセコ町へ迎え入れる等の交流は期待できそうですか？

A ニセコ町にはYTLが運営するリゾート施設があります。YTLホテルスクールでは、例年、2年目の研修として各国の系列ホテルへ生徒を派遣しているそうです。もし、ニセコのホテルへ研修に派遣するという話があれば、本校の見学旅行とニセコへの研修が相互訪問という形で実現するかもしれません。

Q マレーシア見学旅行に対する展望をお聞かせ下さい

A マレーシアは大変魅力的な国でした。現地ではYTL社のオーナーの方ともお会いでき、ニセコ町とマレーシア、ニセコ広告とYTLホテルスクールとの交流を友好という意味合いでは今回の見学旅行の意義をよく果たせたと思っています。今後、ニセコ町のみなさんにマレーシア見学旅行の報告会を行うなどして、生徒たちの成果を町の人々とも共有していきたいと思っています。

現時点では、次年度以降についてもマレーシアへの見学旅行を予定しています。今回の旅行をしっかりと評価して、行程や交流活動の内容も見直しを進めながら、本校のマレーシア見学旅行を更に充実したものにしていきたいと考えています。



北海道ニセコ高等学校 修学旅行 行程表

日付	内容 / 行程	
1日目 10月30日	8:05 9:45 11:30 18:30 20:30 22:00	新千歳空港発 成田空港着 成田空港発 昼食(機内) クアラルンプール国際空港着 夕食(レストラン) ホテル着
2日目 10月31日	8:00 13:00 14:40 19:00 22:00	朝食(ホテル) ホテル発 市内観光 (王宮、国立モスク、独立記念広場・最高裁判所前、 錫工場でピューター加工制作体験) 昼食(レストラン) プトラジャヤ見学(植物園「タマン・ワリサン」、プトラモスク) 夕食(レストラン サロマ・シアターで民族ダンスを堪能) ホテル着
3日目 11月1日	9:00 15:00 16:00 19:00	朝食(ホテル) ホテル発 KLCCで班別自主研修 YTLホテルスクールで現地学生と交流、授業見学、調理実習 夕食(レストランでホテルスクールの学生と) ホテル着
4日目 11月2日	9:00 11:30 13:00 14:10 18:00 19:30 22:50	朝食(ホテル) ホテル発 マラッカ観光 (オランダ広場、セント・ポール教会、サンチャゴ砦) 昼食(レストラン) 自由行動 ジョンカーastreet マラッカ発 夕食(レストラン) クアラルンプール国際空港着 クアラルンプール国際空港発
5日目 11月3日	6:40 10:25 12:05 15:00	成田空港着 成田空港発 朝食(機内) 新千歳空港着 昼食(バス内で弁当) 学校着